みどりとぴーぷる

no.187
2026年（令和8年）
11月20日発行

樹木のふしぎ／カツラ（桂）
みどり探訪／NPO法人すぎなみムーサに聞く
@杉並区立郷土博物館
みどりの窓／公園紹介、落ち葉感謝祭
緑の歳時記／ヤブツバキとオトメツバキ
園芸ワンポイント／バタフライピーの育て方



カツラの実

樹木のふしぎ

カツラ（桂）

（カツラ科カツラ属）

春の新緑、秋の黄葉いずれも美しいカツラを探しに行ってみませんか。

☆どんな木でしょうか

もともとは日本各地の山地や、渓流沿いに生える落葉高木ですが、平地の公園などにもよく植えられます。

幹は垂直にそびえ、高さ約30m、直径1.5mの大木になり、樹皮には割れ目があります。葉は対生し、長さ3～8cmの広卵形で基部は心臓型でハートの形に見えます。

☆どんな花ですか

花は雌雄異株で、四月頃葉が出る前に葉腋に花弁も萼（がく）もない花をつけます。雄花には多数の紅色の雄しべがあり、雌花には数個の雌しべがあり、糸状の柱頭は淡紅色をおびます。

☆どんな実ですか

果実は袋果で長さ1.3～1.5cmの反り返った円柱形でバナナの形にそっくりです。秋から冬にかけ紫褐色に熟して裂け、先端に翼のある種子を出します。

☆どのように利用されてきたのでしょうか

材は軽くて狂いがなく、古くは丸木舟に用いられましたが、近年は庭木、公園樹、建築材、家具、楽器の鍵盤、碁、将棋の盤などに広く利用されています。また、葉は抹香の原料、樹皮は屋根葺きに使われます。

☆歴史・文化として

万葉集にもうたわれ、京都賀茂神社の葵祭では、フタバアオイとともにカツラの枝葉が衣冠などの挿物として用いられています。

秋も深まる頃、カツラの木のそばを通ると香ばしい、良い匂いがするのに気付かれた方もいるのではないでしょうか。落葉した少し古くなった葉の匂いをかぐと、綿菓子のような甘い香りがします。これはマルトールという成分です。

皆さんにもぜひカツラの黄葉の美しさを、目からだけでなく、匂いも体感していただければと思います。


カツラの雄花


カツラの雌花


ハート型の葉

藍染め体験の作品



たたき染め▲

絞り染め▼



藍の育成・藍染

藍染めは、明治から大正初期、井草地区から田無方面までタデアイの栽培が盛んで、３０戸を超える藍生産農家があり、杉並の農作工業の始まりとなりました。その後化学染料の普及や第一次世界大戦などの影響で、盛況と衰退を繰り返し、国内の化学染料生産により姿を消しました。そのような歴史を踏まえ、天然藍に触れる機会を作っています。



藍の植え付け



育った藍の葉



竈（かまど）を使って藍染料作り

緑の歳時記

Kさんのちょっと好奇心

「ヤブツバキとオトメツバキ」

ヤブツバキ　野生種のヤブツバキから多くの園芸品種が生み出されています。種子を絞った油は「椿油」として整髪料や食用に使われています。また、種子に絵を描き根付けとしてアクセサリーにします。

オトメツバキ　薄桃色の花びらを幾重にも重ねて、その名の通り可憐な乙女を想像させられるツバキです。雄しべも、雌しべもかくれて見えず、もちろん実はなりません。この二つのツバキのあまりの差に好奇心!!



みどり探訪



NPO法人 すぎなみムーサに聞く @杉並区立郷土博物館

杉並区立郷土博物館には茅葺きの古民家が移築され、昔の竈（かまど）や囲炉裏が残されています。
すぎなみムーサは、毎年区内の 50 校を超える小学生の体験学習の支援や、藍の育成・藍染めの講習、藁細工の体験会などみどりに関する取り組み、囲炉裏焚きなど古民家の生活体験も行っています。





区内小学３年生の体験学習で説明を聞く子どもたち

藁細工



柏の宮公園でのボランティア活動で採れる稲藁を使う







藁細工の作品





すぎなみムーサのみなさん

～日頃の活動で感じていることを伺いました～

皆で育てた藍を生かして藍染めワークショップを行っており、良い色に染まった時はとても嬉しいです。（Aさん）

コロナ禍で山歩きができない頃、古民家前のエノキの木漏れ日と藍の緑に魅せられ、ムーサに入会しました。（Sさん）

火入れをした囲炉裏を囲み来館者との交流や小学生の体験学習支援、わら細工教室や古民家での体験を通じて、昔の暮らしの知恵を伝えるなどの活動を楽しんでいます。（Oさん）



囲炉裏端でお話を聞く

囲炉裏の番をしながら、木や土、竹など身近な素材で造られた古民家や昔の暮らしの知恵を来館者に伝え、その話に共感や感心の声をいただくことが喜びです。（Kさん）

囲炉裏に火を入れて茅葺屋根や建物を守る活動を続けながら、薪の香りと炎に癒やされるひとときを来館者と共有できることを嬉しく思っています。（Sさん）

このようにすぎなみムーサは、さまざまな活動を通じて貴重な日本文化や伝統の伝承等に寄与され、活動の継続も大変な手間と情熱に基づくものと感じました。

杉並区立郷土博物館
交通アクセス・開館時間はこちらから▶

すぎなみムーサ
ホームページは
こちらから▶



郷土博物館が建つ地と縁の深い「流転の王妃の愛でた朝顔」を大切に栽培し、その種を皆に配布し大好評とのことです。

流転の王妃の愛でた朝顔

旧侯爵家、嵯峨家の長女浩（ヒロ）が夫・愛新覚羅溥傑（フケツ）と愛でた朝顔。終戦後の別離と流浪の時代を経て、日中友好の思いを込め次女の嫮生（コセイ）へ受け継がれたそうです。
現在、杉並区立郷土博物館（旧嵯峨邸）の地でも大切に育てられています。



みどりの窓

公園紹介



下高井戸おおぞら公園（拡張）

スポーツコート、管理棟オープン

サッカー・ラグビーなどで利用できる運動場と、多目的ルームなどを備えた管理棟を併設した施設を１０月に開設しました。

住所：下高井戸２丁目２８番２３号
面積：48,419.18㎡



僕たちも遊びに行くよ！

落ち葉感謝祭 2026

みんなで掃こう! ～目指せ1万人の落ち葉掃き～



令和８年12月５日（土）
午前９時～午後３時

落ち葉感謝祭
詳しくはこちら▶

落ち葉掃きイベント、お楽しみイベントもあります。様々な恩恵を与えてくれる落ち葉に感謝し、できる限り自然へ還していく「みどりのリサイクル」を考えてみませんか？

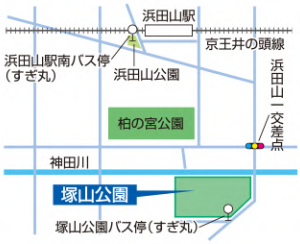
落ち葉感謝月間
11月15日
～12月14日

団体で落ち葉掃きに参加された皆さん！ご報告お願いします！
落ち葉掃き実施報告はこちら▶

みどりの相談所の先生に聞く **園芸ワンポイント**

指導：竹内 高子 先生

みどりに関する相談は
塚山公園 みどりの相談所
☎03-3302-9387
杉並区下高井戸5-23-12
毎週日曜日（第5日曜日を除く）
午前9時30分～正午、午後1時～4時30分



バタフライピーの育て方



バタフライピー
（蝶豆、クリトリア）

マメ科 つる性
原産地東南アジア

コバルトブルーの花とクッキング

タイをはじめとする東南アジア原産、タイ語でアンチャン。青色の蝶形花、多くのマメ科植物とは違い逆向きに大きい花ビラ（旗弁）を下にして咲くのが特徴です。花ビラの青色の色素（アントシアニン）はレモンやライム（クエン酸）を加えると青～紫に変化します。天然の着色料で花茶、ゼリー、琥珀糖、白玉、ジンやカクテル、タイの青いご飯（カオヤム）の色付けに使います。アントシアニンが豊富なので眼精疲労や肌の老化にも効用があります。花後の豆のサヤは有毒成分を含むので食べることはできません。原産地では多年草ですが、寒さに弱いので日本では一年草です。暑さには強く生育旺盛なのでグリーンカーテンとして栽培されています。

1. 種まき



5月中旬～6月上旬
高温発芽性（気温20℃以上）。硬いタネなのでコンクリートやヤスリで2～3回軽くすって一晩、水に浸す。種まき用土を湿らせ、深さ1～2センチの穴をあけてまき土をよせる。水やりをし発芽まで乾かさない。3～4日位で発芽する。

2. 定植



本葉が3～4枚になったら定植をする。土は花や野菜、ハーブの培養土を用いる。マメ科は根を痛めると生長を止めるため、ポット、プランターや花壇に丁寧に植え付ける。

3. 水やり

地植えは根付いたら、ほぼ不要。ポット、プランターは乾いたら、たっぷり与える。

4. 管理手入れ

20センチ位になったら茎先を切る（摘芯）。摘んだ下から脇芽がでる。何度か繰り返すことにより花付きがよくなる。気温が高くなるとツルがよく伸びるので、フェンス、ネット、行燈支柱に誘引する。

5. 肥料



定植時に元肥として緩効性肥料を与える。マメ科は根粒菌で窒素を固定するが、８～９月、葉が黄みを帯びてきたら、速効性肥料（化成肥料、水肥）を与えると花付きが良くなる。

6. 病虫害

特に病虫害はないが、発芽時に新芽を芯喰い虫に食害されることがある。

7. 生育環境

風通し、日当たりのよい場所を好む。

8. 利用法

花びらはフレッシュでもドライでも使える。
ドライはガクをとって天日干しにする。香りや味がないので花茶はレモングラスやミントを加える。
花は6～10月まで咲き続ける。
花言葉は…小さな恋…



〈栽培カレンダー〉

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
種まき					■							
植えつけ						本葉３，４枚で定植						
開　花						■	■	■	■	■		

編集後記

「みどりとひと」はみどりのボランティアと協働で編集しています。

園芸ワンポイントでとりあげられたバタフライピー、はじめて知りました。なんて鮮やかできれいな色のお花でしょう。お茶も酸を加えると色が変わるって面白い。ちょっと飲んでみたいですね。（松）

雨ばかり続いたので、自然はどう変わったのか心配しましたが、ヒガンバナも咲き、キンモクセイも香り、ほっとしました。（山）

今回初めてすぎなみムーサを知りましたが、次世代に継承する素敵な活動だと思いました。（箱）

すぎなみムーサは区内５０校の小学生にかまどや囲炉裏の扱い方などの体験学習を、また区民向けに藍染めや藁細工の講習なども行い、多方面から文化の伝承に力を尽くしておられ、その姿に頭が下がります。（原）

毎日雨続きの9月、郷土博物館にすぎなみムーサの皆さんを訪ねました。そぼ降る雨の日、わざわざ火入れをしてくださった囲炉裏を囲んでお話を伺い、心身共に暖かくなりました。（区）

みどりの新聞　みどりとひと187号　令和8年11月20日発行
編　　集／　みどりのボランティア
編集・発行／　杉並区都市整備部みどり公園課　〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ☎ 03-3312-2111
「みどりとひと」は区ホームページでもご覧いただけます。　https://www.city.suginami.tokyo.jp/